

1 利神城跡保存活用計画策定委員会 会議議事録（概要版）

2 （平成30年度 第3回）

日 時	平成30（2018）年10月29日（月） 13：30～16：00
場 所	佐用町役場 会議室 301
出席者	<p><委員>※敬称略 任期：平成30年2月27日～平成32年3月31日</p> <p>藪 田 貫 兵庫県立歴史博物館 館長 【委員長】</p> <p>北 垣 聰 一 郎 石川県金沢城調査研究所 名誉所長 【副委員長】</p> <p>西 形 達 明 協同組合関西地盤環境研究センター 顧問 （欠席）</p> <p>福 井 亘 京都府立大学大学院 准教授</p> <p>水 島 あ か ね 国立明石工業高等専門学校 准教授</p> <p><地元委員></p> <p>森 本 實 文化財保護審議委員会 会長 【副委員長】</p> <p>永 井 薫 教育委員会 教育委員</p> <p>福 井 泉 長谷地域づくり協議会 企画委員長</p> <p>五 名 和 雄 平福地域づくり協議会 会長</p> <p>井 口 覚 佐用町商工会 会長 （欠席）</p> <p>北 村 広 樹 佐用町観光協会 会長 （欠席）</p> <p>高 木 照 雄 平福文化と観光の会 会長</p> <p>中 島 基 生 大字平福管理委員会 委員長</p> <p>松 本 洋 子 公募委員</p> <p>矢 代 成 生 郷土を考える会 会長</p> <p><助言・指導></p> <p>山 下 信 一 郎 文化庁記念物課文化財調査官 （欠席）</p> <p>小 川 弦 太 兵庫県教育委員会文化財課主査</p> <p>山 上 雅 弘 兵庫県立考古博物館学芸課担当課長補佐</p> <p><事務局></p> <p>平 田 秀 三 佐用町教育委員会 教育長</p> <p>谷 口 俊 廣 教育課 課長</p> <p>宇 多 雅 弘 教育課企画総務室 室長</p> <p>藤 木 透 教育課企画総務室文化財係 副室長</p> <p>中 村 剛 彰 教育課企画総務室文化財係 室長補佐</p> <p>重 崎 勇 人 企画防災課まちづくり企画室 室長</p>

	<p>江 見 秀 樹 企画防災課まちづくり企画室 室長補佐 戸 屋 雅 裕 商工観光課商工振興室 室長 眞 岡 明 信 商工観光課商工振興室 係長 (欠席)</p> <p><コンサルタント> 奥 村 信 一 (株都市景観設計 代表 中 野 浩 幸 (株都市景観設計 取締役 広 田 編 子 (株都市景観設計</p>
議事等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 利神城跡等に関する情勢報告 3. あいさつ 4. 議事・資料の確認 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告書案(第1章～第4章)の確認 (2) 第2回委員会議事録の公開 (3) 利神城跡の本質的価値(第5章)について (4) 基本方針の設定(第6章)について 5. 閉会

1 **—議事内容—**

2 ・議事録の公開について承認。

3 **【報告書のまとめ方について】**

4 ・報告書に載せるべき重要なポイントを、短い文章で、中学生ぐらいがわかるようなレ
5 ベルで、図をたくさん入れて年表等で示したらどうか。詳しくは資料編に全部回す。

6 ・冊子を資料編と本編みたいな形で分けて、本当に読まなければいけないのは本編、そ
7 れで理解できない分は資料編でという2部構成のイメージでやる。

8 ・A3・4ページぐらいの概要版、しかも写真と図でいっぱいのをたくさん刷って、
9 住民に配るとか、自治会の集まりの時にそれを使って説明する方法もある。

10 ・「利神城と平福のまちなみ」に少し足したぐらいのものを住民に配ってもらって、興
11 味のある人はお金を出してもう少し詳しいものを買ってもらうような形がいいので
12 はないか。

13 ・情報の整理がうまくできていないように思われる。資料1の54ページをA3ぐらい
14 に拡大したものをイメージしていただいたらいいが、保存区域とか史跡の範囲、既に
15 法的に守られているものをまず示す。幾つかの資源がそこにプロットされて、道とか
16 川とか自然資源が描かれている1枚の絵がまず大事だと思う。

17 ・キャッチコピーのようなものがまず大きく出た上で、それを目指していくためには何
18 をしていかないといけないのかというところで、初めて「それを保護しましょう」と
19 か「やってみましょう」とならないといけない。指針となる素材が見えない。

20 ・枝割れの数字が多過ぎて、丸数字とかAとかBに分けているのはいいけれども、ほぼ
21 章ごとに分けていてわかりづらい。

1 【報告書の内容について】

- 2 ・城郭の分布図とかいろいろ挙げているが、佐用郡内における中世城跡は、もう少し大
3 きくしてほしい。交通路と城郭の分布図をできれば組み合わせたほうがいいのではな
4 いかと思った。姫路城の六支城の図は、中世の城と近世の城の分布図になっていて時
5 代が合っていないので、根本的に変えたほうがいい。本城の姫路城ももう少しきちっ
6 と位置づけていただきたい。
- 7 ・宿駅図をもう少し大きくして、平福とか三日月のあたりを強調して、この辺がどうだ
8 ったのかがわかるようにしておいたほうがいい。
- 9 ・姫路の飾西宿からで、その中間点が平福。七宿ということも書いたほうがいいと思う。

10 【住民との関わりなど】

- 11 ・今年は高等学校に呼びかけて、農業科学科の校外実習の一環として参加してもらい今
12 回初めて実施した。来年度は自治会が立ち上がって、高校生は田んぼ、平福の住民は
13 遺跡・まちなみの草刈りをやっていきたい。
- 14 ・この委員会は史跡になったことから出発しているけれども、その前の歴史が地域には
15 ちゃんとあるということがお話を聞いてわかった。
- 16 ・屋号の看板の試作を検討している。

17 【本質的価値と構成要素について】

- 18 ・史跡を構成する要素と史跡地周辺を構成する要素という形で、史跡の中だけではなく
19 て、いわゆるバッファゾーンと言われている周辺のところ、史跡指定地外も視野に入
20 れているということがわかると思う。マンパワーの部分も要素の中に入れてるのは、
21 ユニークなことではないか。
- 22 ・史跡の中と外、特に山城地区と御殿屋敷地区に分けた時には、とりわけ山城の主郭部
23 分の石垣が非常に危険性をはらんでいると同時に、本質的価値として非常に高いもの
24 がある。こういうことを処理しながら、徐々に周辺にも視野を広げていくことになる。
- 25 ・山の上の石垣遺構が一番価値がある。山麓の御殿屋敷のほうも価値はあるけれども、
26 危険度からいえば山の上のほう。しかも山上の城の新旧という変遷を考えると、使わ
27 れている石材がかなり意味を持ってくる。そうすると、西山石、東山石という分け方
28 が必然的に出てくる。石材が別々の山にあることの価値づけをどうしていくか、
- 29 ・一番価値の高いところに危険性があるのがここの特徴。そう考えると、見学はしたい、
30 見学は今の状態ではだめという相矛盾する中で、少しでも見えるところから見てもら
31 おうとする。
- 32 ・石垣は東山石と西山石で築かれているが、石垣の積み方の技法そのものによる時代の
33 変化と、それに対応した東山石、西山石だと思う。積み方も重要ではないかと思う。
- 34 ・六支城については、池田の中での六支城についてはこれでいいが、西国外様大名全体
35 を見た中でも利神城の支城の位置づけは遺跡としての価値が非常に高いので、4ペー
36 ジにその文言が要ると思う。

37 【地区区分について】

- 38 ・御殿屋敷地区について、国指定史跡になっている範囲の石塁の内側（いわゆる御殿屋

敷のところ)と南側の城下の部分まで入っているが、この地区割りを将来的にどうしていくか。D-1の部分が将来史跡になればその問題は解消されると思うが、そこが少し気になった。

・地区区分は、そこを活用していく場所として位置づけるとか、遺跡としてはここは集中して保存して手を加えないといった地区割りもあると思う。

・例えば「住民等の巻き込み」というところで全体を見て、初めて平福とお城が連携する形で話が進んでいくと思う。

・まちなみ地区を入れることは問題ないと思うが、「まちなみとしての現状と課題」にすると、町並みの課題になって、この委員会が直接関係する話にならなくなる。例えば「住民との連携」という項目がある中で、全体として平福の町並みはこうで、利神城にはあまり残っていないとかいうのが等価に並んでいくなら理解できる。そうじゃないと、どのメニューから行くかという時にひっかかりがないと、緊急のところでは山城地区だけ整備すればいいとなりかねない。例えば「ルート整備」とか「住民との何とか」とか全体を常にレイヤーでいけるような割り方のほうがいいのではないか。

・利神城の価値は、もちろん山城部分と麓の居館部分がセットということはあるが、対岸に城下町として発展して後に宿場町になったこの町並みがあるというところで、山城と御殿屋敷と町並みの3点セットという言い方を国指定推進の当初からしている。

・まちづくりでは空き家とかの話地域でやっている。お城と御殿屋敷と町並み保存の3点セットということで力を入れてくれていると思う。まちづくりの会議でいい部分を見つけて、町民と平福の住民とで何とか伸ばしていきたいと思っている。

【課題】

・危険性が高い石垣や斜面の安定化。実は我々平福の管理委員会が草刈りをやっているが、もっとロープを張るなり、本当に立ち入ってはだめなところをはっきりさせないといけないのではないかと思う。

・一番大変なところを自分たちが年に2回やっている。利神山の草刈りを知ってもらうために、上がるたびに危ないなと思うけれども、今まで事故もなしにやってきた。これからはもう少し考える時期が来たのではないかと思っている。

・国指定にはなったけれども、今、目に見えて次々崩落が進んでいる状況で、その点については待たないと思う。具体的に何年ごろには石垣を応急的でも措置ができるのかが知りたい。

・御殿屋敷に「うわがみ門」というところがあるが、大きな石で築かれている石積みで、相当に傾いている。非常に危険なので、早急に何らかの形で対応しなければ大きな事故になりかねない。

・文化庁の先生に一度現地を見てもらって、できるところから何をするかということを考える。それが一番近道ではないか。

【今後の予定】

・次に保存管理あるいは整備活用のところに入るが、その前に専門部会で報告書のまとめ方と考え方について議論したいので、一度、間の委員会を入れたいと思う。